

# 事前評価調書

苫小牧市

補助事業名	水道水源開発等施設整備事業		補助金区分(大)	ライフライン機能強化等事業費
			補助金区分(中)	緊急時給水拠点確保事業
事業の名称	苫小牧市緊急貯水槽事業		予定工期	平成21年度～平成30年度
総事業費	事業費	748,000千円		
	補助額	242,000千円		
事業の概要			事業の効果	
<p>大地震による液状化の発生、噴火の降灰による浄水機能への影響はライフライン維持に重大な支障をきたすことが予測され、「被災時の飲料水確保」が対策として求められる。</p> <p>本事業は飲料水を確保する対策として災害時に指定されている避難所に緊急貯水槽を平成30年までに10基設置するものである。</p>			<p>貯水槽の設置により、初期の応急給水活動が円滑に行えることから被災住民の生命の保障が確保され、また緊急時においても飲料水が確保されているという精神的安定感が図られるなどの効果がある。</p>	
評価内容		評価結果の説明		
1. 事業採択前の事業をめぐる社会経済情勢等の変化		<p>本市水道事業においては給水人口が微増傾向にある中で水需要量は減少傾向にある。これは利用者の節水意識の高まりを示しており、今後もこの傾向は続くと考えられる。</p> <p>水道ビジョン策定にあたり行ったアンケートでは、重要な水道事業として「水道水の安定供給」や「災害に強い施設づくり」とする回答が多く、事業に対する市民の要望は強いものがあるといえる。</p> <p>また、老朽管更新事業と併せて緊急貯水槽事業を進めることでより災害に強い水道を構築することができる。</p>		
2. コスト縮減・代替案等の可能性		<p>コスト縮減としては、貯水槽の口径、形式、材質、貯水方式等の比較検討を行い、経済性に優れた貯水槽を選定した。</p> <p>代替案としては、給水拠点に井戸を掘り緊急時の応急給水に利用することが考えられるが、井戸の耐震化や、飲料水として利用できる水質管理が困難であることから、代替案としての採用はしない。</p>		
3. 費用対効果の分析(B/C)		<p>費用対効果の分析から、費用便益比は1.73となり1.0を上回った。この結果から事業の実施は妥当であると判断できる。</p>		
評価	事業者評価結果	評価理由	<p>本市は、「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域」に指定されていること、また近年活火山である樽前山の噴火が懸念され続けているなど、今後大規模な災害が起きる可能性があることから、災害時の飲料水確保のために行う緊急貯水槽事業は実施することが妥当であると判断した。</p>	
	事業実施は妥当である。			
評価	第三者評価結果	評価理由	<p>樽前山火山噴火が専門家によって予測され、今後大規模な災害発生の危険性もっている本市にとって、災害時の速やかな飲料水の確保は極めて重要かつ緊急な課題である。</p> <p>したがって、本事業の推進は、災害時における応急給水活動を確実にを行い、市民のライフラインを確保するという必要不可欠な事業であり実施すべきである。</p>	
	事業実施は妥当である。			
最終方針		決定理由	<p>緊急時の「飲料水の確保」を確実なものとし、住民の生命を守るために応急給水活動を円滑に行うには、緊急貯水槽の整備は不可欠である。また、費用便益比も1.73となったことから事業実施は妥当であると判断した。</p>	
事業実施は妥当である。				